

百倍の実を結ぶ

私が札幌教会にお仕えしていた時のことです。Kさんが礼拝に見えました。高校の教員を定年まで勤め、それからも教育の働きを続けて70才を迎えました。いよいよ完全な引退生活が始まります。娘さんが東京から来られて「**老後の生活を豊かに送れるようになって下さい。教会の礼拝に行きましょう**」と誘いました。

娘の提案を素直に受け入れて、日曜朝の礼拝に出席されたのでした。3月末でした。Kさんはそれから毎日曜の礼拝を休まずに通い始め、8ヶ月後の11月末に、信仰を言い表して**バプテスマを受け**、クリスチャンになりました。

「私は**罪多い人間**です。殊にしばしば酒に溺れ、泥酔の果てに、妻や子どもたちを悲しませ、泣かせたことが幾度あったかわかりません。それが原因で、妻は現在も病の床についております。どんな薬も療法も効果がなく、長い間苦しみ悩んでおります。私も4年前に心筋梗塞になり、時々発作がおき、その都度死への恐怖におののき、悩まされてきました。

礼拝に出席しはじめて、罪深い私のような者をも**赦して下さる神**を賛美し、イエス・キリストを信じ、祈るほかないと心に決めるようになりました。私のために十字架につき、**私の罪を赦して下さる身代わりの死**を遂げて下さったイエス・キリスト、そして三日後に復活された神の子**イエス・キリストを救い主と信じて**、神に召される日までお従いして生き抜こうと決心しました。」Kさんの**決意表明**です。

信仰を確立させるためには、**祈り**を身につけなければと強く思いました。「よし、日曜の礼拝だけでなく、水曜夜の**祈禱会**にも出席しよう」と決心しました。歩くと息づかいも荒くなる体です。札幌の**寒い冬の夜**、凍てつく雪道をバスに乗って教会に通うのは大変危険です。私たちは「暖かくなるまでお待ちください」と幾度もお願いしましたが、吹雪でバスが止まらない限り、欠席なさいませんでした。何か**死に場所**を求めているような真剣さでした。

すると神さまはその信仰にお応えになり、春を迎える頃には、Kさんをかえって**元気な体**にして下さったのです。奥さんが夜中に汗をかきます。その洗濯物を毎日なさり、よくお世話をなさいました。短気ですぐに腹をたてることも減り、**穏やか**になっていきました。やがて奥さんも礼拝に出席して、皆の前で信仰告白をなさり、バプテスマを受けました。

教会学校の教師や教会役員、ことに児童文庫では子どもたちと一緒に過ごし、読み聞かせの相手をしてくださいました。家庭を開放して、奥さん共々に、**楽しい家庭集会**をずっと続けてくださいました。そして**91才**の誕生日直前の2月1日に、静かに**天に召**されていきました。

イエスさまは色々な地に落ちた**種**のたとえ話をなさっています。**道**に落ちた種は、すぐに鳥に食べられてしまいました。道は踏み固められています。神の言葉が蒔かれても、**受け付けない心**の状態です。自分の考えや世間の考えが詰まっていて、とにかくこうだと思い込んでいる心には、**もっと良い呼びかけ**を受け付けません。独善はいけません。常により良いものを求め、受け入れていこうとする**柔らかな心**を持ちたいものです。Kさんの心も70才までは、まさに道のようなものでした。

岩の上に薄く土が覆っている土地に落ちた種は、日照りが少し続くと枯れてしまいました。困難に直面するとくじけてしまうのは、心に受けとめた神の言葉が、深く根を下ろしていかないからです。Kさんは夜の祈禱会に出ようと決心しました。心筋梗塞を患った老体には危険です。でも彼は**神さまに賭けた**のです。するとその決心が、心の中の岩を打ち砕きました。これが**神の言葉を深く受けとる聞き方**なのですね。

茨が生える地に落ちた種は、成長の早い茨に覆われて実を結びませんでした。思い煩いや色々な欲や誘惑の妨げです。Kさんは神の言葉を第一にして生きると決心しました。夜の祈禱会出席を恐れませんでした。すると医者代も酒代も不要になりました。奥さんも同じ信仰を持ち、家庭集会に集まる教会員を喜んで迎えるようになりました。**家の中が明るく楽しくなり**、思い煩うことが一つ二つと消えていったのです。**茨が消えて**いったのです。

Kさんは、70才にして神の言葉に心を開き、御言葉に応答して、自分の生き方を変えようと思いました。すると神さまはKさんの心に**百倍の実**りを結ばせ、お嬢さんが願ったように、**豊かな晩年**を21年も過ごさせて下さったのでした。

“御言葉を聞いて悟る人は、百倍、六十倍、三十倍の実を結ぶ”
(聖書)